

## 第10回 精神保健福祉士 専門科目

### 国家試験 問題（やまだ塾）

（2008年2月17日やまだ塾 HP 掲載）

#### 【精神医学】

問題1 我が国の自殺に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.自殺企図者の中で精神障害がある者のうち最も多いのは統合失調症である。
- B.自殺の原因・動機としては、経済・生活問題が最多で、家庭問題がそれに次いでいる。
- C.老年期では思春期、青年期より自殺死亡率が高くなる。
- D.我が国の自殺死亡率はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダのいずれの国よりも高い。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題2 精神症状に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1.幻覚がせん妄のもとで見られる。
- 2.健忘が解離性障害で見られる。
- 3.感情失禁が不安障害で見られる。
- 4.他人に注視される場面への恐れが社会恐怖で見られる。
- 5.素行の面での問題が行為障害で見られる。

問題3 見当識を調べる質問として適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 今日は何曜日ですか。
- B. 「こどもの日」は何月でしょうか。
- C. ここはどんな場所ですか。
- D. 九州は日本地図のどのあたりにありますか。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 4 認知症に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 脳血管性認知症では、随伴症状として抑うつ気分、せん妄等があり、パーソナリティは比較的保たれる。
- B. 晩発性アルツハイマー型認知症では、急速に荒廃する経過をとり、顕著な高次皮質機能の障害を伴う。
- C. ピック病では、行動的兆候が明白な記憶障害に先行する。
- D. レビー小体型認知症では、認知機能の変動、舞踏病様の運動障害等が見られる。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 5 うつ病性障害に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 幻覚妄想を伴うものに抗精神病薬を用いる。
- B. 電気けいれん療法は通常急性期を避けて行う。

- C.精神療法で習慣的な自己否定的認知を是正することを目指す。  
D.寛解期に入ったら直ちに抗うつ薬を減量する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 6 次の事例で認められる症状として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

(事例)

28歳の主婦。特に理由もなく動悸、胸痛、息苦しさとともに、そのまま死んでしまうのではないかと  
う不安にたびたびおそわれるようになった。数分間でおさまることが多く、家事は普通にこなしていた。  
やがて、同様のことが起きたら困ると考え電車に乗るのを避け、外出しなくなった。

- A.パニック発作  
B.強迫観念  
C.広場恐怖  
D.社会恐怖

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 7 てんかんに関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.単純部分発作では通常発作中に意識障害を伴わない。
- B.熱性けいれんの多くは学童期までには治癒する。
- C.高齢発症のてんかんは症候性が多い。
- D.欠伸発作では意識が保たれた状態で四肢の筋肉がれん縮する。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 8 小児期に見られる精神障害とその特徴に関する次の組み合わせのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.小児自閉症.....他人との情緒的関係の欠如
- 2.アスペルガー症候群.....限られた物事への興味や関心
- 3.多動性障害.....衝動性
- 4.選択性緘黙.....知能低下
- 5.ドウ ラ トゥーレット(de la Tourette)症候群.....音声チック

問題 9 境界型人格障害の特徴に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.対人関係が不安定になりやすい。
- B.自分で決めるべき事を他人任せにする。
- C.慢性的に空しさを訴える。
- D.社会規範や慣習を軽視する。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |

- 3 ○ × ○ ×  
4 × ○ × ×  
5 × × ○ ○

問題 10 薬剤と副作用に関する次の組み合わせのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.抗精神病薬……………月経異常
- 2.ベンゾジアゼピン系睡眠薬……………高アンモニア血症
- 3.炭酸リチウム……………甲状腺機能低下症
- 4.選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)……………性機能障害
- 5.三環系抗うつ薬……………便秘

### 【精神保健学】

問題 11 自殺総合対策大綱(平成 19 年 6 月)に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.我が国の自殺者数は、平成 10 年に一挙に 8,000 人余り増加して 3 万人を超え、その後も高い水準が続いている。
- 2.多くの自殺は、個人の自由な意思や選択の結果ではなく、様々な悩みにより心理的に「追い込まれた末の死」と考えられている。
- 3.未遂者や遺族等への事後対応は、再度の自殺や後追い自殺を防ぐことも期待され重要である。
- 4.事前予防とは、現に起こりつつある自殺の危険に介入し、自殺を防ぐことである。
- 5.世界自殺予防デーに因んで 9 月 10 日からの 1 週間を自殺予防週間に設定した。

問題 12 精神保健医療福祉の最近の状況に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1.「精神保健福祉法」第 24 条(警察官の通報)による通報件数はほとんど変わらない。
- 2.精神障害者の外来患者数はほとんど変わらない。
- 3.1 年以上の在院患者の退院率は急増している。
- 4.新たな入院患者に占める統合失調症患者の割合は、増加傾向にある。
- 5.在院患者のおよそ 4 割が 65 歳以上である。

(注)

- ①「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。
- ②退院率とは、1年以上の在院患者のうち退院した患者割合の推計値のことである。

問題 13 ライフサイクルと精神保健に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1.少年期・青年期・壮年期・老年期に区分された段階をライフサイクルという。
- 2.老年期に見られる神経症性障害に退却神経症がある。
- 3.児童相談所における被虐待児童の相談対応件数は近年減少傾向にある。
- 4.青少年のいじめの問題は、我が国特有の現象である。
- 5.成長過程にある青少年期において、メディア・リテラシーの獲得は重要な課題である。

問題 14 精神保健福祉センターの業務に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1.関係諸機関で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。
- 2.精神医療審査会の開催事務及び審査遂行上必要な調査その他当該審査会の審査に関する事務を行う。
- 3.精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務を行う。
- 4.精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。
- 5.精神障害者に対する措置入院の可否を決定する。

問題 15 次の事業等とそれに関係する法律の組み合わせのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.地域包括支援センター……………介護保険法
- 2.障害者雇用納付金……………精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
- 3.児童自立支援施設……………児童福祉法
- 4.精神科デイケア利用……………障害者自立支援法
- 5.薬物乱用防止教育……………学校教育法

問題 16 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」(厚生労働省精神保健福祉対策本部,平成16年9月)に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.精神病床の機能分化の促進
- 2.新たな入院の抑制
- 3.精神医療の透明性の向上
- 4.ライフステージに応じた住・生活・活動等の支援体系の再編
- 5.市町村を中心とした地域生活支援体制への円滑な移行

問題 17 我が国の自殺による死亡についての最近の状況に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1.30 歳代男性では、自殺死亡数は悪性新生物による死亡数よりも多い。
- 2.自殺死亡数と交通事故による死亡数はほぼ同じである。
- 3.年齢階級別の自殺死亡率に男性と女性の差はない。
- 4.自殺の手段の約1割は縊死、絞首及び窒息によるものである。
- 5.自殺死亡者のうち、無職者の占める割合はごく少ない。

問題 18 最近の精神病床の入退院に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1.新入院患者数は経年的に減少している。
- 2.退院する患者数よりも新入院患者数がはるかに多い状態が続いている。
- 3.「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の患者の退院先は、家庭が 3 分の 1 程度である。
- 4.退院した「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」と「気分[感情]障害(躁うつ病を含む)」の患者での在院期間には大きな違いはない。
- 5.「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」で退院した患者では、半数以上が 3 か月以内に退院している。

問題 19 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.精神障害の総患者数(精神及び行動の障害、アルツハイマー型認知症、てんかんを含む)は、約 300 万人である。
- B.病院入院中の患者数は、「精神及び行動の障害」が「新生物」より多くなっている。

- C.在院患者数に占める任意入院の割合は、約4割である。  
 D.精神障害者保健福祉手帳の交付者数は、30万人を超えている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	×
5	×	×	×	○

問題 20 次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1.認知症の普及啓発としてピンクリボン運動がある。
- 2.1月は未成年者飲酒防止月間である。
- 3.自殺予防の普及啓発として「ダメ。ゼッタイ。」運動がある。
- 4.「引きこもり」は単一の疾患である。
- 5.自殺予防のためのボランティア団体の全国組織として「日本いのちの電話連盟」がある。

### 【精神科リハビリテーション学】

問題 21 WHO による国際生活機能分類(ICF)に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.肯定的な表現とするため「参加制約」という言葉は使われていない。
- B.「活動」、「参加」を用いることで肯定的側面を強調した。
- C.「機能障害」には身体構造上の問題は含まない。
- D.「活動」は「参加」に影響するが逆方向の影響はない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×



4 × ○ × ×

5 × × ○ ○

問題 22 精神科病院在院患者の現状に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.65 歳以上の高齢者が増加している。
- B.疾患別では統合失調症圏患者が約 20 万人で最も多い。
- C.1 年以上の在院患者は約 20%である。
- D.我が国の人口万対の精神病床数は 20 床未満である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 23 地域生活支援事業における「精神障害者退院促進支援事業」に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.本事業の実施主体は市町村である。
- B.自立支援員は、福祉サービス体験利用、保健所グループワーク参加等の院外活動に係る同行支援を行う。
- C.自立支援員は、対象者、家族に対する地域生活移行に関する相談・助言を行う。
- D.自立支援員は、退院に向けた個別の支援計画の作成を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×

- 4 × ○ ○ ○  
5 × × ○ ×

問題 24 リハビリテーション技法に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.精神科作業療法は、急性期、回復期を問わず回復状況に応じて行われる。  
B.行動療法のオペラント条件付けは、系統的脱感作法とも呼ばれる。  
C.家族心理教育プログラムでは、知識提供だけでなく対処能力向上も目指す。  
D.入院生活技能訓練療法は、入院中の神経症患者も対象となる。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 25 障害者自立支援法に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.サービス利用計画作成にかかる費用の自己負担は、原則1割である。  
B.短期入所(ショートステイ)利用のためには、障害程度区分認定を受ける必要がある。  
C.共同生活援助(グループホーム)は、介護給付費の支給対象とされているサービスである。  
D.自立支援医療を利用するためには、障害程度区分認定を受ける必要がある。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 26 精神障害者保健福祉手帳に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 写真を貼付することになっている。
- B. 交付に必要な診断書の発行は精神保健指定医でなくてはならない。
- C. 申請窓口は市町村である。
- D. 有効期限は2年である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 27 精神障害者の疾病と障害に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 疾病と障害の共存は、精神障害の特徴で身体疾患では見られない。
- B. 施設症 (institutionalism) は、精神科病院への入院以外では生じない。
- C. 手段的日常生活動作 (Instrumental ADL) には、金銭管理が含まれる。
- D. 生活の質 (QOL) の評価には、客観的評価だけでなく主観的評価の方法もある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

## (精神科リハビリテーション学・事例問題)

次の事例を読んで、問題 28 から問題 30 までについて答えなさい。

## (事例)

F さん(男性, 62 歳)は, 20 代後半に幻聴や被害関係妄想が現れ, 統合失調症と診断されて初回入院。入院して服薬を続けると改善して退院するが, その後も服薬を中断して幻聴や被害妄想が活発になるということを繰り返してきた。十数回の入院歴があり, 6 年前に入院してからは入院が長期化していた。1 年ほど前に病棟で心理教育プログラムに参加して「退院後も薬を続けたいいけない理由が初めて分かった」と述べるようになり, またその頃から非定型抗精神病薬が処方されて意欲が高まったことから半年前に退院となった。

退院後は生活保護を受けながら, アパートで単身生活を送り, 週 3 日は地域活動支援センターに通っている。自炊は出来ないためコンビニ弁当を買って食べ, 更にカップラーメンを毎晩のように食べている。また甘い清涼飲料水も多量に摂取している。

身長 165cm であるが, 退院後の半年で体重が 10kg 増えて 80kg になった。地域活動支援センターの勧めで住民健康診断を受けたところ糖尿病の疑いに加え, 血圧が高く肝機能が落ちていることを指摘され, 主治医との相談を勧められた。F さんは友人に「太ったのは薬のせいだよ」と言われて, 「薬を飲むのが怖くなった」と地域活動支援センターの G 精神保健福祉士に相談を求めてきた。(問題 28)

F さんの希望で G 精神保健福祉士も主治医の診察に同伴した。主治医から食生活と運動について指導が行われ, さらに現在の処方薬の効用と副作用の説明を受けた。受診の帰り道, F さんは「太りすぎと水分の取りすぎというのは分かったけど好きなものは我慢できないし, 実際に何を食べたら良いのか分からない」と今後の食生活に対して不安な様子であった。(問題 29)

F さんの生活ぶりを詳しく聞いたところ, 昼間でも寝ていることが多く, 部屋の片付けが苦手な掃除もほとんどできていないことが分かった。G 精神保健福祉士と F さんは, 生活改善のため利用できそうなサービスについて話し合うことにした。(問題 30)

問題 28 G 精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.退院後の生活を振り返りながら, 服薬について話し合う機会をもつ。
- B.いったん薬を止めてみて悪化したら再開するように勧める。
- C.F さんの同意を得て主治医に連絡し, 状況を説明して服薬指導を依頼する。
- D.服薬内容を調整してもらうため入院を勧める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 29 G 精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.食べ物の好き嫌いや食事の量, 水分摂取量, 毎日の運動量などの情報を得る。
- B.食事や飲水に関して日常生活で気をつける項目表を自ら作成し, チェックすることで自己管理を促す。
- C.弁当の購入を止め, 栄養に配慮した薄味の食事が摂取できるように自炊を勧める。
- D.食事に関する指導のために精神科訪問看護の利用を勧める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 30 G 精神保健福祉士の提案に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.食事付きのデイナイトケアの利用を勧めた。
- B.生活を改善するためにケアホームの入居を勧めた。
- C.ホームヘルプサービスの利用を勧めた。
- D.地域活動支援センターのウォーキングのプログラムへの参加を勧めた。

(組み合わせ)

A	B	C	D
---	---	---	---

- 1 ○ ○ × ×  
 2 ○ × ○ ○  
 3 ○ × ○ ×  
 4 × ○ × ×  
 5 × × ○ ○

### 【精神保健福祉論】

問題 31 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.1950 年代前半、デンマークの知的障害者運動から生まれたノーマライゼーションという考え方は「1959 年法(精神遅滞者ケア法)」によってその思想の具体化が進められた。  
 B.国連の国際障害者年(1981 年)では「完全参加と平等」をテーマにノーマライゼーションの思想や取組を国際的に広め、障害者の社会参加に大きな役割を果たした。  
 C.国連総会「障害者に関する世界行動計画(1982 年)」において、障害者の基本的人権と障害者問題の指針を示すとともに、障害者はその原因、特質及び程度にかかわらず、同年齢の市民と同等の基本的権利を有するとした。  
 D.我が国においては障害者基本法の制定を受け、「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略～(1995 年、平成7 年)」が策定され障害者施策の推進が図られた。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | ○ | × | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 32 精神保健福祉の歴史に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.2006 年 12 月に国連総会において「障害者権利条約」が採択され、「障害に基づく差別」を定義し、いかなる分野においてもあらゆる区別、排除、制限をなくす内容になった。

B.1963年のケネディ(Kennedy,J.)大統領の特別教書により、アメリカ合衆国において脱施設化の方向性と地域ケア体制が促進された。

C.1968年にWHO(世界保健機関)によって派遣されたクラーク博士の「クラーク勧告」では、我が国の精神科病床は人口に比較して少ないと指摘した。

D.インフォームド・コンセントの考え方は、ナチスドイツの行った人体実験を裁いたニュルンベルグ裁判でも指摘され、1964年に世界医師会の「ヘルシンキ宣言」でまとめられた。

(注)

「障害者権利条約」とは、「障害者の権利に関する条約(外務省仮訳)」のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問題 33 精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A.適正な医療及び保護を確保するために、患者本人の意思によらない入院や行動制限を伴うことを踏まえて、提供する医療内容や人権の擁護の観点から入院継続の適否等の審査を行う。

B.入院患者が退院を請求する場合、その請求方法は書面によるものとされているため、電話などの口頭による請求は認められていない。

C.精神科病院からの医療保護入院の届出や措置入院、医療保護入院者等にかかる病状報告書の審査、入院患者等からの退院・処遇改善請求に関する審査を行い、結果を都道府県知事に通知する。

D.審査会の委員は、医療委員2人以上、法律家委員1人以上及び学識経験者1人以上の合計5人の合議体で構成され都道府県知事が任命するが、全体で15人以内という人数制限がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×

4 × ○ × ○

5 × × ○ ○

問題 34 障害者自立支援法の制定に併せて行われた「精神保健福祉法」の一部改正に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.精神障害者の定義の一部変更として、精神分裂病の名称を統合失調症に改めた。
- B.精神障害者の一層の医療の適正化を図るため、都道府県知事に対する任意入院患者の病状報告がすべての精神科病院に義務化された。
- C.精神医療審査会の委員構成について都道府県の裁量を拡大するとともに、地方精神保健福祉審議会の設置を任意とした。
- D.緊急その他やむを得ない理由がある場合、一定の要件を満たす特定医師により、医療保護入院や応急入院等に係る診察を可能とする特例措置規定の追加を行った。

(注)

「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 35 法における保護者規定の変遷に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.精神病患者監護法(明治33年)において、監護義務者は地方長官の許可を得て私宅監置を行うことができるとした。
- B.精神衛生法(昭和25年)において、保護義務者への名称が変更されるとともに、自傷他害を及ぼさないように監督し、財産上の利益を保護しなければならないと規定した。
- C.精神保健法の一部改正(平成5年)において、保護者への名称変更を行うとともに、措置入院患者の



引取りを行うに当たり、必要に応じて精神病院の管理者や社会復帰施設の長などに社会復帰の促進に関し相談し必要な援助を求めることができるとした。

D.「精神保健福祉法」の一部改正(平成 11 年)において、自傷他害行為に関する監督や財産上の利益の保護についての義務を廃止した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 36 日本精神保健福祉士協会の倫理綱領に定めた基準に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1.クライアントの知る権利を尊重し、必要とする支援や信頼のおける情報を適切な方法で説明して自己決定できるよう援助する。
- 2.第三者から情報開示の要求がある場合、クライアントに不利益を及ぼす可能性があるときにはクライアントの秘密保持を優先する。
- 3.秘密を保持することにより、クライアント又は第三者の生命や財産に緊急の被害が予測される場合は、クライアントとの協議を含め慎重に対処する。
- 4.クライアントから要求があるときは、クライアントの記録にある第三者の情報も含めて開示して知る権利を尊重する。
- 5.複数の機関による支援やケースカンファレンス等を行う場合には、本人の了承を得て行い、個人情報の提供は必要最小限にとどめる。

問題 37 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A.精神科救急情報センターの相談窓口は、原則 24 時間体制とし、相当程度の精神科診療経験を有する医師、精神保健福祉士等の精神保健福祉施策に精通した者を置くものとされている。ただし、医師については例外規定がある。

B.市町村において、精神障害者や家族の相談に対応するために、精神保健福祉士や精神保健福祉に

関する知識を有する人を精神保健福祉相談員として配置することが義務化されている。

C.保護観察所に配置されている社会復帰調整官は、精神保健福祉士その他の精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識を有する者と定められている。

D.精神障害者退院促進支援事業において、退院を支援する自立支援員には、精神保健福祉に精通した精神保健福祉士等が従事している。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 38 障害者自立支援法に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A.障害者及び障害児がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスに係る給付その他の支援を行うものとした。

B.すべての国民は、その障害の有無にかかわらず、障害者等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営めるような地域社会の実現に協力するよう努めなければならないとした。

C.介護給付費や訓練等給付費等の支給を受けようとする障害者又は障害児の保護者は、市町村の支給決定を受けなければならないとした。

D.市町村は、都道府県が定める基本指針に即して、障害福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制の確保に関する計画を定めるものとした。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 39 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.「障害者対策に関する新長期計画」(平成 4 年)の理念を継承するとともに、障害者の社会への参加、参画に向けた施策の一層の推進を図るため、「障害者基本計画」(平成 14 年)を定め、平成 15 年度から 10 年間の障害者施策の基本的方向について取り上げた。
- B.障害者基本計画の前期の具体的目標として「重点施策実施 5 か年計画(新障害者プラン)」(平成 14 年)が定められ、条件が整えば退院可能な入院患者の退院や精神科救急医療システムの整備などが取り上げられた。
- C.精神保健福祉対策本部中間報告による 3 部会設置とその結論を踏まえ、「精神保健福祉法」の改正を始めとする施策の方向を示すため「精神保健福祉の改革に向けた今後の対策の方向」(平成 15 年)が公表された。
- D.障害保健福祉施策の総合化や自立支援システムへの転換、制度の持続可能性などを取り入れた「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」(平成 16 年)が公表された。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 40 「精神保健福祉法」に定められた入院形態に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.任意入院による入院が 1 年以上継続した場合は、入院目的や退院の可能性を再確認するために、入院継続の同意書を得る必要がある。
- B.医療保護入院では、1 年ごとに「通院または任意入院に移行できなかった理由」と「患者本人が病識や治療意欲を獲得する取り組みの方針」を含めた病状を都道府県知事に報告しなければならない。
- C.緊急その他やむを得ない理由がある場合、精神障害者本人が入院に同意しなくても特定医師は 72 時間を限り、医療及び保護のために本人を入院させることができる。
- D.精神障害者が自身を傷つけ又は他人に害を及ぼす恐れがあると 2 名以上の精神保健指定医が判断したときに、精神科病院の管理者の権限で措置入院を行うことができる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 41 自立支援医療(精神通院医療)に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A.申請に際しては、精神障害者保健福祉手帳を所持していなければならない。
- B.自己負担額は原則として10%であるが、負担軽減策が講じられている。
- C.世帯認定の単位は、住民票上の家族である。
- D.支給認定期間は1年以内であって、指定自立支援医療を受けることが必要な期間とされている。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 42 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A.通院医療を続けていた人がこの法による医療の終了を希望する場合は、家庭裁判所に申し立てることができる。
- B.重大な事実の誤認によって入院が決定されたと考える保護者は、2週間以内に抗告することができる。
- C.著しく不当な理由による入院であると考えられる付添人は、選任者である保護者の意思に反してでも自らの権限で抗告することができる。
- D.対象者及び保護者は、弁護士を付添人に選任することができる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 43 精神保健福祉の法制度に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.精神衛生法の一部改正(昭和40年)により、措置入院制度や精神衛生鑑定医制度が新設された。
- B.精神保健法(昭和62年)により、本人の同意に基づく任意入院が規定された。
- C.「精神保健福祉法」(平成7年)により、精神障害者の自立と社会参加の促進を図るとともに、精神障害者保健福祉手帳制度が導入された。
- D.「精神保健福祉法」の一部改正(平成11年)により、緊急に精神科病院への入院を必要とする精神障害者の移送制度が創設された。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 44 障害者の雇用・就労に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.就労移行支援事業では、一般就労(雇用)への移行に向けた「専門的訓練コース」による委託訓練を実施する。
- B.障害者の態様に応じた多様な委託訓練は、一般企業やNPO法人に委託して行われる就職に必要な知識・技能を習得するための公共職業訓練である。
- C.精神障害者総合雇用支援事業は、医療関係者と連携して、新規雇入れ、職場復帰、雇用継続に係

る総合的な支援を地域障害者職業センターで行うものである。

D.就労継続支援事業(A 型)は、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援をする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

(精神保健福祉論・事例問題 1)

精神保健福祉士が取り組んでいる精神障害者の地域での自立生活を支援する活動に関する次の事例を読んで、問題 45 から問題 47 までについて答えなさい。

(事 例)

小規模(共同)作業所に勤務していた E 精神保健福祉士は、精神障害者の社会参加・社会復帰を支援することを目指し、当事者や家族、関係者と協力して特定非営利活動(NPO)法人 F を設立し、G センター、H 施設、J ホームを開設し運営を行ってきた。

障害者自立支援法の施行に伴い、関係者との話し合いをもとに以下のように事業を展開していくこととなった。

G センターは、地域生活支援センターとして平成 16 年に開設され、日常生活への支援や相談、地域交流などの活動を行い、精神障害者の社会復帰と自立と社会参加の支援を進めてきた。障害者自立支援法施行に際して市との話し合いを行い、地域活動支援センター I 型に移行し、相談支援事業の委託も受けた。(問題 45)

H 施設は、平成 5 年に小規模(共同)作業所として開設し、その後小規模通所授産施設に移行し、現在に至っているものである。H 施設の利用者は、H 施設での作業訓練を経て一般企業での就労を希望する人と一般就労が困難で福祉サービスを利用しながら社会生活に必要な活動・訓練を受けたい人に大別される。今後、利用者のこうしたニーズを踏まえ、障害者自立支援法に基づくどのような障害福祉サービスに移行していくのかが大きな課題となっている。(問題 46)

J ホームは、平成 15 年に、グループホームとして開設したが、障害者自立支援法の施行に伴って新サービス体系への移行を行い、2 か所の建物を借り受け、引続きグループ活動を継続している。なお、

現在の利用者は7名で、入居時期に違いはあるものの、地域での生活の拠点として活用している。(問題47)

問題45 Gセンターに関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A.Gセンターが委託を受けた地域活動支援センター事業や相談支援事業は、障害者自立支援法において、精神障害者地域生活支援事業として規定されているものである。

B.Gセンターが移行した地域活動支援センターI型は、1日当たり実利用者数が概ね20名以上と想定されている。

C.Gセンターには、精神保健福祉士などの専門職員が置かれている。

D.Gセンターは、市からの委託により、精神障害者に対しても移動支援や日常生活用具給付のサービスを提供することができる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	○	×

問題46 H施設のサービスに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

A.H施設が障害者自立支援法に基づく新サービス体系への移行を行う場合は、平成23年度末までに行わなければならない。

B.H施設が位置づけられている精神障害者小規模通所授産施設が制度化されたのは、平成11年の「精神保健福祉法」改正時である。

C.H施設が障害者自立支援法に基づく新サービス体系に移行する場合、これまでの実績を踏まえて市町村と協議を行えば、改めて新たなサービス事業所として都道府県に申請しなくてもよい。

D.H施設が利用者の様々な就労ニーズに応えるためには、就労継続支援事業や就労移行支援事業など複数の事業を組み合わせ実施することも可能とされている。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 47 J ホームに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.J ホームの利用者は、日中はH施設を利用したり一般企業で働いたりしている。
- B.J ホームは、介護給付のうち共同生活介護として位置づけられ、運営されている。
- C.J ホームは、利用者の暮らしの場であり、生活上の課題はJホームの世話人やサービス管理責任者に相談している。
- D.J ホームの利用期限等については、利用者に応じて多様な形を認めている。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(精神保健福祉論・事例問題 2)

精神障害者の支援のあり方に関する次の事例を読んで、問題 48 から問題 50 までについて答えなさい。

(事例)

建築会社(社員 140 名)に勤めている 28 歳の Y さん(男性)は、27 歳の妻と 2 歳になる長女の 3 人家族で、兄弟はなく近所で両親が暮らしている。Y さんは大学 2 年生(20 歳)のときに対人関係で悩み精神科クリニックを受診し「神経衰弱」と診断され、約 2 年間通院した。大学卒業後、高校の後輩で交際していた現在の妻と結婚し子どもが生まれる頃までは生活は順調であった。しかし、2 年前に主任になって以降、職場の人間関係のストレスと仕事上の責任の大きさとで悩み、会社も休みがちになった。Y さん



は、職場で孤立し、皆から悪口を言われ、妻からも監視されていると思い込み、いらいらすと妻や長女に対して暴力を振るうようになった。妻は長女への被害を怖れて、実家に帰ってしまい、Yさんに対して離婚したいと手紙を送ってきた。Yさんは会社の上司の勧めで精神科クリニックを受診し、医師から統合失調症と診断され、4週間の休養が必要であると指示された。その後、約1か月間、両親の家から通院していたが、一向に精神状態は回復しないため、先の医師から精神科病院に入院することを勧められた。Yさんは妻と両親とともに精神科病院に受診したところ病識もなく不安定なため精神保健指定医の判断で医療保護入院になった。(問題 48)

妻は、精神科病院のZ精神保健福祉士に、Yさんの暴力が自分だけでなく、長女にまで及ぶため、Yさんが退院後一緒に暮らすことが不安であることや、もし暴力行為があったときに誰に頼ったらよいか、どのように対応したらよいか分からないので、今後のことについて相談した。Z精神保健福祉士は、今後の対応について説明している。(問題 49)

Yさんは入院して3か月後、病状は安定し退院することになったが、今後の生活をどのようにするかということで妻と話し合わなければならない。妻の希望は、自分の両親との同居ならまた一緒に暮らすことも考えたいということである。Yさんは職場にも復帰することになり、主任から降格されたが、仕事の量を減らしてもらい何とか、不安定ながら仕事を続けている。(問題 50)

問題 48 Yさんは精神科病院に医療保護入院で3か月入院となった。医療保護入院の保護者に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.Yさんが入院するときには父母の家から通院していたので、父が保護者になって入院に同意した。
- B.保護者が入院に同意しない場合は、応急入院の手続きをとることができる。
- C.配偶者である妻は、離婚したいと手紙を書いているので保護者になれない。
- D.保護者を変更する場合には、地方裁判所に申し立てる必要がある。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 49 妻は、Yさんが再び暴力を振るうようになるのではないかと聞いたことを心配し、今後の生活

に関する不安を Z 精神保健福祉士に相談した。次の記述のうち Z 精神保健福祉士が妻に対して行った助言として適切でないものを一つ選びなさい。

1. 家族は Y さんの持つ課題に大きな影響を与えることから、妻に家族教室などに参加するよう勧めた。
2. Y さんが再び不安定になったときは、主治医に相談するよう勧めた。
3. 暴力を振るうようになった場合は、配偶者暴力相談支援センターの利用も可能であると伝えた。
4. 再び暴力を振るうようになった場合、夫婦関係の維持より、妻が考えていた離婚を勧めた。
5. 再び Y さんに不安定な様子が伺えたときは、デイケアや福祉サービスの利用を検討することを勧めた。

問題 50 Y さんは 3 か月職場を休んだ後、復職して通院を続けながら仕事をしている。Y さんについて、障害者の雇用の促進等に関する法律に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Y さんの勤める会社の事業主は、障害者雇用納付金の納付義務が生じる。
- B. Y さんは精神障害者であるため、この法に基づく法定雇用率の対象であり、会社には雇用義務がある。
- C. Y さんが精神障害者保健福祉手帳を所持していない場合は、法に基づく障害者雇用率に算定されない。
- D. Y さんの勤める会社の、法に基づく障害者雇用率は 2.1%である。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

### 【精神保健福祉援助技術】

問題 51 精神保健福祉士が行う役割に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.福祉事務所では、生活保護を受給している精神障害者の退院促進支援を行う。
- B.保健所では、医療を必要とする精神障害者に適切な医療施設を紹介しなければならない。
- C.精神科救急情報センターでは、精神科診療の経験を基に受診指導を行う。
- D.保健所や精神保健福祉センター等では、電子メールの活用等を含め精神保健福祉に関する相談援助の拡充を図る。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題52 次の事例を読んで、W精神保健福祉士の対応として適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

(事例)

Eさん(男性, 70歳)は統合失調症で、妻と二人暮らしである。最近、認知症症状も出てきたことから、妻が家庭裁判所に後見開始の審判を申し立てた。妻も高齢で、足腰が弱っており、不安を感じて申し立てに至ったということである。そこで、家庭裁判所における後見開始の審判の結果、精神保健福祉士事務所を開業しているW精神保健福祉士が成年後見人として選任された。

- A.法的にはEさんの了解を得る必要はないが、自己決定の尊重という制度の理念に則って、後見人になることについて了解を求めた。
- B.Eさんが選挙に行くことを希望したため、身上を配慮して、会場まで同行した。
- C.Eさんの食料品や衣料品などの買い物については、W精神保健福祉士の持つ取消権は行使できない。
- D.1年間の後見活動が終了したため、Eさんと妻に相談して、後見人としての報酬額を家庭裁判所に申告した。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |

- 3 ○ × ○ ×  
 4 × ○ × ×  
 5 × × ○ ○

問題 53 チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割と機能に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.個別援助活動では、ニーズによっては適切な他の専門援助機関につなぐ役割が期待される。  
 B.デイケア活動では、グループワークを学んだ精神保健福祉士がスタッフの中心となる。  
 C.地域援助活動では、コンサルテーション、ソーシャル・アドミニストレーションの能力とともに地域全体のデザイン力が期待される。  
 D.災害時の支援では医療優先の原則となるので、精神保健福祉士であっても医師の指示で動くことが基本となる。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 54 精神保健福祉士の職業倫理に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.1982年の日本精神医学ソーシャルワーカー協会札幌宣言で確認された内容は、「本人及び家族の立場に立つ」ことを基本方針としている。  
 B.自殺を決意しているとの相談を受けたので、上司と相談の上、守秘義務は重要であるが、主治医と家族に連絡した。  
 C.ホームヘルパーが利用者の生活歴を教えて欲しいと希望したので、家族の了解を得て、教えた。  
 D.グループホームの建設を反対する地域から選出された市議員に、精神障害者の長期入院の実態を説明するロビー活動を行った。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 55 精神保健福祉士が行う集団援助技術に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.メンバー個々の援助目標とともにグループの凝集性も大切にする。
- B.グループになじめないメンバーは、個別援助に切り替える。
- C.メンバー間のストレスを軽減するため批判的な発言は制限する。
- D.メンバーの問題解決能力をバウムテストでアセスメントする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 56 就労移行支援事業における精神保健福祉士の支援方法に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1.施設内作業訓練だけでなく、企業の場合に利用者と一緒に出向いて実習を支援し、訓練効果を高めようとした。
- 2.事業終了後に引き続き就職した利用者の職場を訪問し、定着に向けて支援を行うこととした。
- 3.利用者に対して、事業終了後の就職のために、適性に合った職場探しを行うこととした。
- 4.この事業は利用料が高いので、利用者の経済的負担を減らすために、作業工賃収入を上げることを優先した。
- 5.暫定支給期間中に、「就労移行支援のためのチェックリスト」を活用して個別支援計画を作成した。

問題 57 精神保健福祉士が行う集団援助技術に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.病棟内のグループ活動において、意見の対立による葛藤は凝集性が高まる良い機会なので、メンバー間の話し合いによる解決に委ねた。
- B.思春期のグループでは、メンバーの自主性を尊重し、目的や目標にとらわれないプロセス重視の運営を行った。
- C.心理劇(サイコドラマ)において、補助自我の役割を担った。
- D.就労支援プログラムでは、精神保健福祉士がグループ分けを行った。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 58 マッピング技法に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.ファミリーマップは、家族成員の間に見られる葛藤、情緒的な結び付き、力関係などの複雑な状況を家族図の中に表す図式法である。
- B.ジェノグラムは、3 世代以上の家族の人間関係を図式化したものであり、世代関係、家族の出来事、職業、家族の離散、役割取得などが含まれる。
- C.ソーシャルサポート・ネットワークマップは、特定個人間の連結を図示したものであり、マグワエア (Maguire,L.)によって開発された図式法である。
- D.エコマップは行動理論や生態学的理論の知見を取り入れながら、ハートマン(Hartman,A.)によって考案された図式法である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×

- 3 ○ × ○ ×  
 4 × ○ × ×  
 5 × × ○ ○

問題 59 精神保健福祉士による介入に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 利用者のニーズを把握すると同時に、利用者を取り巻く環境も把握した上で介入する。  
 B. 精神科デイケアでグループワークを行う際、他職種と連携し、専門的な視点で介入する。  
 C. 介入を行った結果、効果が出ていないと判断できる場合は、スーパービジョンやコンサルテーションを受けるようにする。  
 D. 症状の悪化という危機的状況では、精神保健福祉士が自らの専門性に基づいて判断し、介入する。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 60 ストレングスモデルの理解に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. ストレングスモデルでは、自己洞察を深め、認知と行動の改善を促進するトレーニングを重視する。  
 B. ストレングスモデルでは、一義的には、その人の強さ、関係性、そしてその人の希望に焦点をおく。  
 C. ストレングスモデルでいうスピリチュアリティ(Spirituality)とは、人はダメージを受けても、行動や感情、認知を変え再形成する可逆性を意味する。  
 D. ストレングスの4タイプとは、①個人の性質・特性、②才能・技術、③環境、④関心・願望をいう。

(組み合わせ)

- 1 A B  
 2 A C  
 3 B C

4 B D

5 C D

問題 61 次の事例を読んで、K 精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

(事例)

J さん(女性, 43 歳)は、うつ病で外出ができず、長く自宅療養していた。適度な対人交流が必要なために、主治医から市内にある地域活動支援センター( I 型)を紹介された。J さんは、地域活動支援センターへ電話して、K 精神保健福祉士に相談した。そして、朝起きられないことや、重い気分外出困難だが、趣味の音楽鑑賞などから外出の再開を試みたいと話した。

- A.毎日通所して相談を受けるように伝える。
- B.気晴らしと生活リズムを整えるためにスイミング・スクールにつなげる。
- C.外出を再開した場合の具体的な生活イメージづくりを支援する。
- D.当センターで開催されるミニ・コンサートの情報提供をする。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | × | ○ | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 62 個別援助技術におけるアセスメントに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.臨床的直感を排除し、アセスメントシートによって評価する。
- B.クライアントとともに評価する。
- C.クライアントの意思を尊重し、専門職の固有の視点から主観的に評価する。
- D.家族の協力態度など包括的に評価する。

(組み合わせ)



	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 63 次の事例を読んで、F 精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

(事例)

Q さん(男性, 20 歳)は、高校在学中に勉強に集中できずに学校を休みがちになり、2 年生の秋から学校に行かなくなってしまった。そのまま中退し、精神科診療所に通院しながら在宅で過ごしている。両親とは折り合いが悪く、口論によるいさかいが絶えない。あるとき父親が、新たに地域若者サポートステーションが立ち上がり、引きこもりの人も対象とした就労支援が始まることを聞いてきた。さっそく両親が同ステーションを訪れ、対応したF精神保健福祉士は、後日 Q さん宅を訪問した。すると Q さんは「働いてみたい」とのことだったので、F 精神保健福祉士は次のように相談を進めた。

- A. 「働いてみたい」と思った動機について Q さんに聞き、後日の来所を促す。
- B. 熱心な公共職業安定所担当官に連絡し、Q さんに合った職場探しを依頼する。
- C. 両親の考えを聞くとともに、Q さんの了解をとって主治医に考えを聞く。
- D. 働く準備のためにも、両親といさかいがなくなってから相談を再開する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 64 次の事例を読んで、R 精神保健福祉士が活用しようとするソーシャルサポートネットワークとして、適切でないものを一つ選びなさい。

(事 例)

Kさん(女性, 21歳)は, A市のN児童養護施設(以下「N施設」という)で育ち, 高校3年生のとき統合失調症と診断され, 3年間入院している。病院のR精神保健福祉士は, Kさんの希望を尊重し, N施設の近くにあるアパートへの退院を支援しようと試みている。Kさんは, 単身生活の経験もなく, 働いた経験もないが, 昼間はパート勤務を希望している。

- 1.就労している精神障害者のセルフヘルプグループ
- 2.A市にある精神保健福祉ボランティア団体
- 3.N施設を支援する奉仕団体
- 4.精神障害者就労支援事業所の会
- 5.A市を管轄する都道府県の精神医療審査会

問題 65 ケアマネジメントに関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.ニーズに対して総合的なサービスを提供するので, 情報の共有化とプライバシー保護が課題となる。
- B.アセスメントは, 定められた基準によって, ケアマネジメントの従事者が行う。
- C.多くの専門職や非専門職が参加するので, 各種サービスを提供することを目指すケアチームの活動となる。
- D.個人の強さに焦点を当てる場合は, ニーズとサービスを結び付ける仲介モデルが採用される。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 66 精神保健福祉士が行うスーパービジョンに関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.援助関係にある利用者と境界を保ちにくくなり, 沈んでいる精神保健福祉士に対して, 食事に誘い励ました。

- B.自己効力感(self-efficacy)をもてない利用者の援助に悩んでいる精神保健福祉士に対して、リフレミングの方法を教示した。
- C.アルコール依存症の親をもつ利用者と共に依存状態に陥っている精神保健福祉士に対して、自己覚知を促した。
- D.バーンアウトシンドローム(燃え尽き症候群)に陥り始めた精神保健福祉士に、新たな研究会の立ち上げを提案した。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 67 医療機関の精神保健福祉士が行うGさんへの退院支援に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

(事例)

Gさん(男性, 28歳)は, 大学在学中に統合失調症を発病し, 今回で3回目の入院となっている。退院すると「体がだるくなる」, 「頭がぼーっとする」といった理由で服薬を中断してしまう。干渉する母親に対して被害的な妄想を抱き, 暴言や暴力行為によって, 再入院になるというのがこれまでのパターンである。今回も入院して2か月が過ぎ, 退院を考える時期にきている。

- 1.薬に関する正しい知識を身に付けることを目的に, 服薬指導プログラムへの参加を勧める。
- 2.母親に対する被害的な妄想を改善していくことを目的に, 森田療法への参加を勧める。
- 3.自己への洞察を深め, 病気に対する認識を深めるために, 集団精神療法への参加を勧める。
- 4.生活リズムを整え, 母親との適度な距離を保つために, 精神科デイケアの利用を勧める。
- 5.同じように病気や障害に苦しんでいる人たちと, 感情や経験を分かち合う場として, セルフヘルプグループを紹介する。

問題 68 精神保健福祉士が行う援助に関する次の記述のうち, 適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A.引きこもりになる原因は家族の問題なので、養育態度改善のための面接を行う。
- B.PTSD(外傷後ストレス障害)への支援として、住民に対する福祉教育を行う。
- C.うつ病の中高齢者への支援では、集団援助は適さないため個別援助を行う。
- D.高齢者の自殺の要因には、役割の喪失があり、生きがいづくりのための支援を行う。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

(精神保健福祉援助技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 69 から問題 71 までについて答えなさい。

(事 例)

Mさん(男性, 41 歳)は, 大学卒業後に大手の商社に就職して 18 年経つが, その大半を営業職として仕事をしてきた。子どもの頃からまじめで責任感が強く, 欠勤もなく, 安定した職業生活を送っていた。ただ, 正義感が強いことから, 時々上司や取引先と意見の衝突があった。そのたびに気分の落ち込みがあり, 周囲に内緒で精神科クリニックに通院していた。

今年 4 月に, 都内から地方の政令市にある支店の課長として異動となり, 小学生と中学生の子どもと共働きの妻を残して単身赴任となった。しかし慣れない土地と単身生活のため孤独な日々が続いた。しかも初めての中間管理職の仕事は精神的負担が強く, 疲労困憊して, 朝起きても気力がわかずに会社を休みがちになった。憔悴しきった M さんを見ていた上司は心配し, M さんを連れて精神科クリニックを訪ねた。M さんは受診の結果, うつ病との診断を受け, 診断書を提出して休職扱いとなり, 家族のいる自宅近くの精神科病院に入院となった。

10 か月経過して症状も少しずつ回復し, 1 か月後にようやく退院できる見通しとなった。M さんは復職を希望していたので, 精神科病院の P 精神保健福祉士は, M さんと主治医の依頼により入院中から復職支援を開始することとした。(問題 69)

M さんは退院し, うつ病の復職支援プログラムをもつ精神科クリニックのデイケアを利用しながら本格的に復職を目指すこととした。そして精神科クリニックの Q 精神保健福祉士が復職の支援を担当することになった。(問題 70)

退院から 6 か月後, M さんは自宅から通える本社に異動となり, 復職することができた。会社も職場配置, 勤務時間等の配慮をしてくれた。ある日, 人事部長から Q 精神保健福祉士に「精神障害者も障

害者雇用率に算定できることになったので、Mさんを障害者として我が社の障害者雇用率にカウントできないか」と問い合わせがあった。(問題 71)

問題 69 P 精神保健福祉士による M さんへの支援に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 病棟の清掃及び配膳の仕事を担当して集中力や体力を取り戻す。
- B. M さん, 妻, 会社の人事担当者, 主治医及び P 精神保健福祉士による面談を設定する。
- C. リラクゼーション及びアサーショントレーニングを行う。
- D. 保健所と社会適応訓練事業の開始時期について調整する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 70 精神保健福祉士が M さんに対して行う支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神障害者総合雇用支援を利用するために、地域障害者職業センターと一緒に相談に行く。
- B. 復職の準備を兼ねて、近くのコンビニエンスストアで短時間のアルバイトを提案する。
- C. 職場の人事担当者と面談し、復職後の職務内容や労働条件について検討してもらう。
- D. 時々職場に顔を出し、上司の指示を受けて仕事を体験する方法である地域障害者職業センターのハビリ出勤支援を提案する。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 71 人事部長に対する助言に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.産業医から主治医に、精神障害者保健福祉手帳の保有の有無を確認してもらう。
- B.人事部長から M さんに、理由を示して精神障害者保健福祉手帳の保有の有無を確認する。
- C.人事部長から M さんに、精神障害者保健福祉手帳の取得を依頼する。
- D.全員受診の定期健康診断結果から、M さんを障害者雇用率にカウントしてよいか否かを産業医に判断してもらう。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

(精神保健福祉援助技術・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 72 から問題 74 までについて答えなさい。

(事例)

W さん(男性, 50 歳)は大学卒業後, 大手流通会社の営業部に配属されて 28 年目になる。元来飲酒好きな上, 仕事上の接待でも飲酒する機会が多い。営業成績は常にトップクラスであり, その実績が認められて, 今年度より部長に昇格した。しかし着任早々, 部下の度重なる不祥事の処理に追われ, 疲労感を酒で紛らわす日々が続いた。責任感の強い W さんは自らの統率力の無さを責め, その切迫感から妻への暴力とともに連続飲酒をするようになった。夫の急変ぶりに, 妻はどう対応してよいか分からず狼狽するばかりだった。

ある日, W さんは飲酒中に吐血したため救急搬送され, 解毒とともにアルコール依存症専門の精神科病院に入院となった。そこで抗酒剤の服用とともに, アルコールリハビリテーションプログラム(以下「ARP」という)へ参加することになった。集団精神療法を担当している S 精神保健福祉士との事前面接で, W さんは「妻も私も飲酒以外は問題ないと思っている」と口調を強めた。その直後に, 第 1 回目のセッションが開催されることになった。(問題 72)

ARP が後半に差し掛かった頃には、メンバー同士で薬に関する情報交換をしたり、家族の悩みを打ち明けたりする場面が見られるようになっていた。(問題 73)

3か月にわたるARPが最終段階になり、メンバーのほとんどは外出を利用して、アルコール依存症者のセルフヘルプグループに参加するようになっていた。Wさんも12のステップを使ったミーティングに積極的に参加し、断酒の意志が高まっている。(問題 74)

問題 72 グループワークの開始期に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.Wさんの断酒の決意をグループで確認する。
- B.妻と二人で同席するように勧める。
- C.いすを円型に設定し、Wさんの対極に座る。
- D.Wさんの個別面談も併せて行う。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 73 グループワークの作業期に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A.スクリーニングテストを実施する。
- B.抗酒剤や離脱症状を説明する。
- C.スリップの体験談を話し合う機会を提供する。
- D.アルコールなしで過ごせる遊び心を育てるプログラムを実施する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C

4 B D

5 C D

問題 74 W さんの参加しているセルフヘルプグループに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. アルコホーリクス・アノニマス (Alcoholics Anonymous)
2. ナラノン (Narcotics Anonymous)
3. アラノン (Al-Anon)
4. 断酒会
5. ダルク (Drug Addiction Rehabilitation Center)

(精神保健福祉援助技術・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 75 から問題 77 までについて答えなさい。

(事例)

最近 P さん(男性, 57 歳)は, 4 年近く入居していた福祉ホーム B 型「U ホーム」(以下「ホーム」という)を退去し, 以前からホームで交際のあった S さん(女性, 50 歳)と生活保護を受け小さなアパートで同居生活を始めた。この 1 年近く, ホーム職員たちの支援もあって, P さんの病気(統合失調症と糖尿病)も安定し, 生活全般が順調に経過したため, 地域のスタッフに引き継ぐケア会議が市障害福祉係で開催された。参加者は, ホームで担当者であった M 精神保健福祉士, 施設長, 病院の主治医, 病院の訪問看護師, 福祉事務所の生活保護担当者, 市の担当保健師, 総合病院の管理栄養士, そして P さん, S さんである。P さんがやや照れながらも生活ぶりをボソボソと話すのを, S さんは相づちを入れながら付け足して話をする。同居生活の楽しさが伝わってきて, 参加者の空気も和み, 会議では地域での支援体制を具体化するため, 主に役割分担が話し合われた。(問題 75)

その結果, これからは市の保健師を中心にケア体制を組むことになり, ホーム側は後方的な支援に回るようになった。P さんからは, これからの生活で不安に思っていることが率直に話され, 精神の病気よりも身体のことを心配なことが, S さんからはスーパーマーケットの仕事(パート)が順調なこと, ケンカしたときホームに泊まりに行っても良いかなどが出された。スタッフからは丁寧な返答があった。(問題 76)

若い M 精神保健福祉士は, 2 人でカラオケに行ったら楽しかったことを聞き, 経済的な問題が生じていないか心配になり, 「お金の管理は大丈夫なの?」と尋ねた。「ええ, 何とかやっています」と P さんは不機嫌に答えた。M 精神保健福祉士は, 「少ない生活費なので, 無駄遣いや食費を削るような無理はし



ないように」とSさんに話したところ、Pさんは急に怒り出し、場が少し気まづくなった。(問題77)しかし、施設長が「結婚式を挙げるなら仲人をやりたい」と発言し、主治医も「私の方が付き合いも長い」と言っ  
て、場が再び和んだ。

問題 75 専門職の役割分担に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.病院の訪問看護師は、Pさん、Sさんの服薬や医療継続のための助言及び社会復帰の指導を担う。
- B.福祉事務所の生活保護担当者は、自立助長のためにSさんの就労継続を支援するとともに、Pさんの日中通える場の確保と調整を担う。
- C.総合病院の管理栄養士は、Pさんの自炊能力を高めるために献立の助言、調理指導を担う。
- D.市の担当保健師は、2人の生活全般の相談役として定期的に訪問し、疾病の管理や主治医とのつなぎの役割も担う。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 76 2人の同居生活の課題に対する支援に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A.経済的な心配に備えるために、Sさんの働いたお金は手をつけず貯金することを勧める。
- B.精神症状の再燃は考えにくいですが、再燃時はホームへの休息入所に対応することを説明する。
- C.2人がケンカして困ったときは、避難的にホームを利用することにも応じられることを伝える。
- D.血糖値の管理が思わしくない場合は、注射への切り替えを考慮することを説明する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C

4 B D

5 C D

問題 77 Pさんが急に怒り出した原因として考えられる次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1.自分たちが信用されていないと感じる発言だったから
- 2.M 精神保健福祉士にいじめられたと思ったから
- 3.大好きなカラオケ趣味を否定された気がしたから
- 4.そこまで私生活に立ち入ることが腹立たしく思ったから
- 5.若いスタッフにそこまで言われたくないと感じたから

(精神保健福祉援助技術・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

(事 例)

J 精神保健福祉士は 5 年間精神科病院の急性期病棟で働いてきたが、先進諸国の援助実態を学び、重度精神障害者を地域で支援することの重要性に気づき、新しく立ち上がった包括的地域生活支援プログラム(Assertive Community Treatment:ACT)チームである K チームに勤務することにした。3 か月の研修後、J 精神保健福祉士にとっての最初の相談は、18 歳時に統合失調症を発病した L さん(女性、25 歳)の母親からであり、電話で相談を受けた。L さんは、発病後半年間入院した後、医療中断となり、最近、時折母親に暴力行為もあるとのことである。L さんの家族は、母親と 3 歳年下の弟の 3 人家族で、父親は L さんが高校 1 年のときから別居し、隣市で女性と同居している。母親に K チームを紹介したのは、保健所の H 精神保健福祉相談員で、L さん家族を 4 年前から援助している。母親との初回面接は、H 精神保健福祉相談員と K チームの精神科医及び J 精神保健福祉士の 3 名で保健所の面接室で行われた。(問題 78)

L さんの両親は正式には離婚しておらず、父親から毎月 20 万円の仕送りがあり、弟は父親とは時々会っている。母親の話から、L さんが最近、意欲をなくし自室にこもりがちであるが、父親に会いたがっていること、発病前にはラベンダー畑を見に行くのが夢だったことなどが明らかになった。J 精神保健福祉士が L さんの主担当者となり、担当チームを作り、当初は母親面接という形で家庭訪問を繰り返し、弟とも協力関係が確立した。(問題 79)

L さんが担当チームの職員に関心を示すようになった頃合いを見計らい、担当チーム員は自室にこもっている L さんに部屋の外から声掛けを試みた。週 1 回の定期的な訪問を繰り返した結果、3 か月後に

は J 精神保健福祉士の訪問時に L さんが自室から出てくるようになり、話し合うことが可能になった。

(問題 80)

問題 78 初回面接場面での 3 人の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.L さんは医療中断者なので、精神科医が面接をすすめる。
- B.H 精神保健福祉相談員は、K チームの 2 人に L さん家族の情報提供をする。
- C.J 精神保健福祉士は、母親に別居の理由を詳しく確認する。
- D.面接終了時には、緊急時の対応方法を伝える。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 79 この時点で、J 精神保健福祉士が訪問をするに当たって活用する知識と技術に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.チーム医療によるアプローチ
- B.別居している父親へのアプローチ
- C.母親のためのリカバリープラン
- D.L さんのニーズアセスメント

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |

5 × × ○ ×

問題 80 この時点で J 精神保健福祉士が行ったことに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A.L さんにとって関心があると思われる同世代のタレントについての話題を出してみた。
- B.L さんとの関係が築かれたので、母親面接は終了した。
- C.ラベンダー畑の写真や北海道旅行のパンフレットを持参した。
- D.父親に会いたい理由を確認し、プランに入れた。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×